

作成日 令和2年6月22日

サークル名	ときめき配置合戦	発表者	森 眞貴
		リーダー	森 眞貴
部署	外来	サブリーダー	福長 芳江, 山崎 真紀子
活動期間	開始：令和元年 7月25日 終了：令和2年 3月18日	メンバー	森 眞貴, 福長 芳江 山崎 真紀子, 中本 チズ子 二岡 博美, 宮野音 努
会合状況	会合回数 15回 1回あたりの会合時間 約1時間		
所属長/推進メンバー	阿川純子	所見欄	
レビュー担当者	永澤医師 野田看護副部長		

テーマ

TV室における各種物品の効率的配置～物品収集にかかわるストレスを減らそう～

テーマ選定理由

TV室には再滅菌物（ワイヤー類，鉗子類）が約50種，定数物品が86種，臨時物品が約90種，医療材料（業者の預かり物品）が約50種あり，いろいろな場所の棚に収納している。種々の医療材料・資材が検査に関わる職員全員に対して，わかりやすく整理・区分けして保管されているとは言えない為，緊急検査時，物品の準備がスムーズに行えない状況である。9月にTV室のTV機種変更に伴う改装工事により，物品の配置整理を行い効果的な配置になるよう活動にとりくみたいと考える。

現状把握

- ・調査1（緊急検査の物品収集距離）

この半年間にあった緊急検査の上位3検査（ERCP以外）について，必要物品を収集するのにかかった移動距離を計測した。

	検査名	半年間の件数	準備に必要な距離
1	胸腔ドレーン	19	22m
2	イレウス管挿入	14	29m
3	CV	11	29m

- ・調査2（アンケートの実施）

当直に入る外来看護師，師長及び放射線技師に対し，TV室の物品出しについてアンケート調査を行った。

質問1，TV室の物品だして困ったことを教えて下さい。

- ・各種薬品，物品の配置場所がわかりにくい。
- ・酸素の位置が良くない。
- ・開き戸のなかに物品があると見つけにくい。
- ・廊下に物が置いてあるのでわかりにくい，探すのにバタバタする。
- ・セットされてある物品がない時，どこから出したらいいのかわかりにくい。

質問2，どのように改善すればよいと思いますか？

- ・整理する棚が必要ではないか。
- ・棚をゾーン化する，内視鏡ゾーンとか。

- ・ガストログラフィンどコップは同時に使用するので、そのようなものはセット化するか並びで配置する。
- ・棚に番号をつけて、その位置をファイルにする。

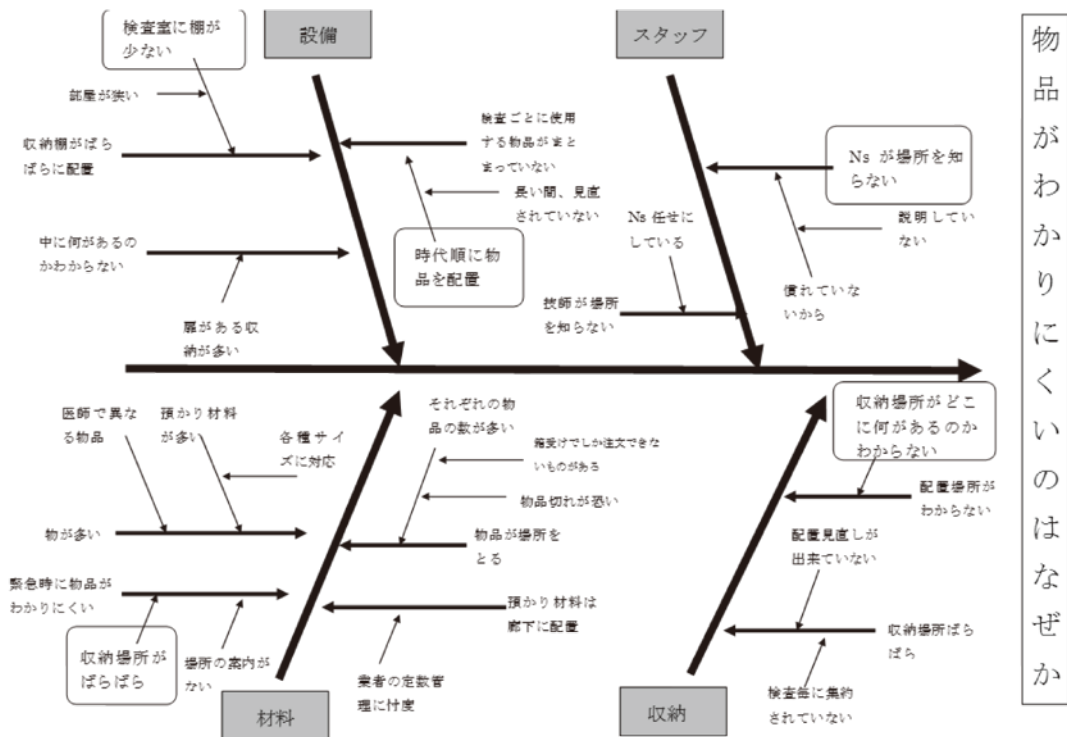
目標設定

2020年3月までに、TV室の改装工事に伴う棚の新設などにより、室内のみの物品配置が可能と考えた。

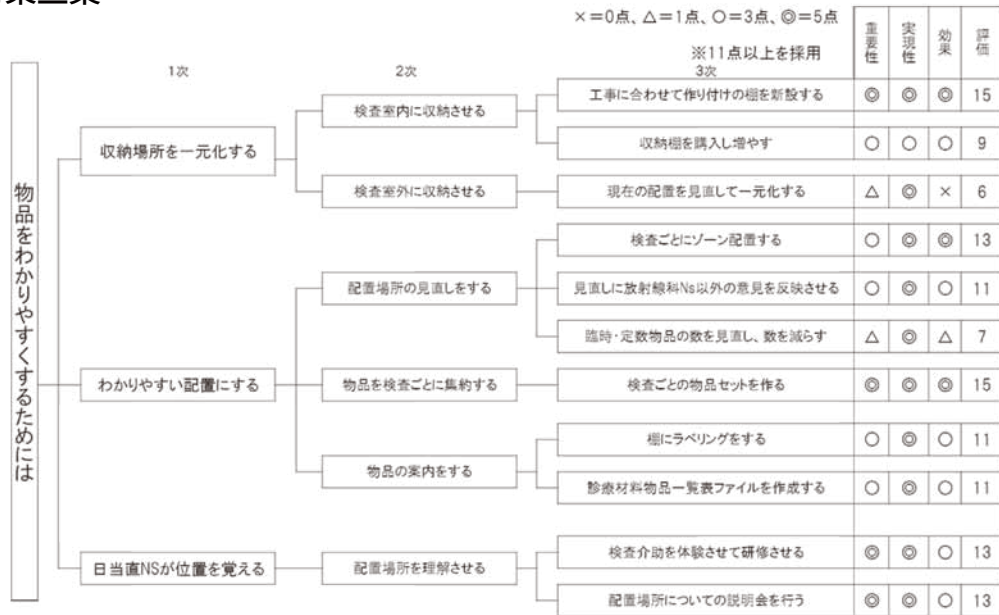
目標は以下のように設定した。

- ①準備に必要な距離を1/3にする
- ②物品の配置をわかりやすくする

要因の解析



対策立案



対策の実施

実施項目 (WHAT)	誰が (WHO)	いつ (WHEN)	どこで (WHERE)	なぜ (WHY)	どうする (HOW)
検査室内に作り付けの棚を新設する	宮野音・工事業者	9月中旬	TV室	収納スペースを増やし、一元的に管理するため	工事に合わせ、棚を新設する
検査ごとにゾーン配置する	福長・山崎・森	10/1までに	TV室	物品の配置場所がわかりやすく、探しやすくするため	ERCP、PTCD、気管支鏡などの検査ごとにゾーンで配置する
検査ごとの物品セットを作る	福長・森	11月末までに	TV室	緊急時、あちこち探し回ることなく、物品漏れもなく、物品だしの時間短縮のため	必要物品をセット化する
診療材料物品一覧表ファイルを作成する	山崎・森	12/15までに	TV室	物品の配置場所をわかりやすくするため	物品名をあいうえお順に並べ、一覧表ファイルを作成する
日当直Nsに検査介助を体験してもらう	二岡・福長・山崎・森	11/15までに	TV室	物品の配置場所を把握するため	緊急度の高いERCP検査に付いていただく
TV室の棚にラベリングをする	宮野音・森	12/15までに	TV室	物品の配置場所をわかりやすくするため	テブラシールでラベリングする
臨時物品棚・定数物品棚に物品の名前と定数をラベリングする	宮野音・森	11/15までに	廊下の棚	物品切れをなくすため	実施する
臨時物品・定数物品・再減菌物の定数の見直しをする	福長・山崎・森	10月末までに	TV室・廊下の棚	余計な物品の数を増やさないため	行う

効果の確認

- 目標①：準備に必要な距離を1/3にする

	検査名	改装前	改装後
1	イレウス管挿入	29m	11m
2	CV	29m	11m

- 目標②：物品の配置をわかりやすくする

対策の実施後、最初のアンケート回答者に再度アンケートを実施した。「ゾーン配置」、「物品のセット化」「ファイルの作成」など、高評価を頂いた。

- ・物品の位置がわかりやすくなり、よかった。
- ・ラミネートした手順もよかったです。

- ・物品の配置が一目瞭然でわかるようになった。
- ・整理整頓されているのが一瞬でわかり清潔感がある。
- ・必要物品がまとめてありテプラで表記されるようになりわかりやすくなった。
- ・何に使用する物品なのか表示してあり、わかりやすくなったと思う。

またERCPの検査介助体験を通じた研修は、緊急検査時の余裕が生まれるなど、一定の効果があつた。

- ・機械も雰囲気も変わっていたので、研修をくんでくれる機会があつてよかった。
- ・いつも頭もちなので、時々記録・注射する側も体験できていたら、よかったと思う。
- ・夜間、休日時に少し余裕ができるため検査に入つてよかった。安心して放射線科の検査につけ、検査に集中できる。
- ・カテやTVのこういった実習を、定期的を開催して欲しい。

他職種の意見としては、以下のものがあげられた。

- 医師：物品がすぐ傍にあるので、考えながら検査ができる。検査時間が短くなった。
- 放射線技師：物品だしの意識が高まった。急患時に、看護師さんと準備がしやすくなった。

効果の確認（波及効果）

①臨時物品の整理・削減

棚の整理を行う行程のなかで、臨時物品の定数化などの見直しを行い、物品の整理・削減につながつた。

②検査手順書をセット物品に配置

物品セット内に、ラミネートした検査の手順書を入れた。分厚い手順書より、簡便に確認ができ、当直看護師に非常に好評だった。

③放射線科看護師

物事を順序立てて改善する大切さがわかつた。意見を交わすことで、チームがまとまつた。

標準化と管理と定着

	何を	なぜ	誰が	いつ	どこで	どうする
標準化	診療材料物品の一覧表ファイルを	配置場所が把握できるように	森	12月中	TV室	作成した（一部未完成）
管理	診療材料物品の一覧表ファイルを	変更点に対応するために	リーダー	毎年10月	TV室	見直す
	棚ラベリングを	変更点に対応するために	リーダー	毎年10月	TV室	見直す
	臨時物品を	現状に合うように	リーダー	毎年10月	TV室	見直す
教育	物品の新たな配置場所を	把握できるように	森	1/10、17	TV室	師長、副師長、3東小児救急チーム、外来Nsに勉強会を実施した
	物品の配置場所を	把握できるように	リーダー	日当直配置時	TV室	介助体験を通じた勉強会を開催する

今後の課題

	良かった点	悪かった点	今後の課題
テーマの選定	病院の方針である医療の質向上につながった	—	病院理念を意識し、更なる向上を目指す
現状把握	物品が離れており、集めるのに距離があることがわかった	当初は時間の計測で現状把握をしようとしていたため、手間取った	スムーズな検査の展開が可能となるように問題意識を持続させる
目標設定	高い目標で取り組めた	目標設定根拠が少し曖昧になった	次の取り組みでさらに向上させる
要因解析	特性要因図やアンケートより、普段見えてこないものも発見できた	短時間での作業となったため、他の主要因があったかもしれない	今後も他の要因を検索していく
対策の立案と実施	収納場所のゾーン化、セット化、体験研修を含めた勉強会が効果的だった	ラベリングとファイリングがまだ不十分	さらに充実した対策の立案を行っていく
効果の確認	目標近く、大きく移動距離の削減が出来た	目標に達成していないセットもあった	目標に達成していないセットを今後も取り組む
標準化と管理の定着	ファイルと棚の管理、教育体制を新たに定着させる	—	管理の定着がきちんと継続できるようにしていく